

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 38 号	2004年9月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	-------------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

8月31日（火）「田万川の流域環境を考える会」7名の方が来られました。会長他1名で対応。

9月5日（日）会員13名により、水路の側溝廻りの草刈りと湿地の草取りを行いました。

9月18日（土）本日の作業、湿地の草取り、ビオトープ内&駐車場草刈、台風で倒れた看板修理等でした。参加会員14人。

9月18日（土）観察隊は、昆虫観察でした。隊員16名、保護者11名、会員4名でビオトープから須賀河内川沿いに上流に向かって昆虫達を追っかけて廻りました。

2. 今後の予定（事務局 記）

見学者

9月23日（木）森林インストラクター山口の会

9月25日（土）長崎伝習所 生きもの再生塾

行事

10月3日（日）作業

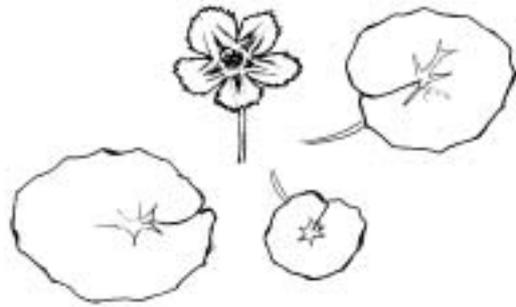
10月16日（土）稲刈りと里山自然観察隊（ドングリマップをつくろう）

3. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

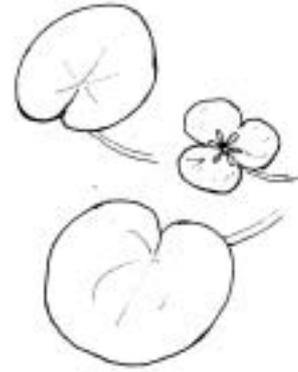
アサザとトチカガミ

7月号の会報でもお知らせしましたが、6月下旬から7月にかけてビオトープでアサザの花が咲きました。環境省レッドリストでは絶滅危惧ⅠB類、山口県のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されている希少植物です。アサザの語源は「水深の浅い所」=浅沙（アササ）に生育することに由来しているそうで、低地の池沼には普通の水草だったらしいのですが、護岸工事や除草剤などが原因で自生地はほとんどなくなってしまいました。かつては、湖岸一面にアサザの花が咲く光景が見られたという茨城県の霞ヶ浦では、「アサザプロジェクト」という自然再生事業が行なわれています。コンクリート護岸で破壊された湖岸植生帯を人の手で回復させることからこの事業は始まりました。水草が根付くのを助けるため、NPOが流域の木材を使った消波施設を提案し、これが国の公共事業として採用されています。周辺の里山の灌木を刈って粗朶とし、湖岸に沈めて消波施設とします（粗朶沈床法）。水源林の保全と林業の活性化、新たな雇用の創出などの副次効果が生まれています。100校の小学校にビオトープ池を設置し、在来水草を育てるとともに、本来の湖の自然を体験理解したり、学区内から集まってくる生物を調べたりする環境教育も盛んに行なわれているようです。自然再生を地域の活性化に結びつけるこのような事業の行く末は注目して見ていくべきでしょう。

9月初めに、湿地で白い花を付けた浮葉植物を見つけました。調べたところ、トチカガミでした。単子葉植物なので、花びらは3枚です。一方のアサザの花は黄色で、リンドウの仲間に近いので、5枚に切れ込んだ合弁花です。葉は、アサザとサイズ・形ともによく似ているのですが、同じように見える丸い葉でもアサザは少し角があること、トチカガミの方が葉が厚いことで見分けられます。トチというのはスッポンのことで、鏡とは厚い光沢のある丸い葉に由来しています。この葉を、スッポンの鏡に例えらるとは、昔の人の発想力の豊かさに驚かされます。この水草も希少植物です。環境省のレッドリストに指定はありませんが、山口県のレッドリストでは絶滅危惧A類と、最高レベルの指定になっています。アサザとともに大切に守っていききたい植物です。



アサザ（ミツガシワ科）



トチカガミ（トチカガミ科）

4. ビオトープ関連（会員の声）

鷺草と夜香木

（田村勝芳、田村美代子 記）

9月5日のビオトープの集いで湿地ゾーンの中に鷺草がまだ沢山咲いているのを見ることが出来ました。今年の春に植え付けた球根から育ったもので竹の柵をして保護していたものが見事に花開いたものです。我家でも昨年の夏一鉢の斑入りの鷺草を東岐波の友人から戴いて来ました。蕾を20個余りつけた物でしたが8月には見事に美しい花を咲かせてくれました。

鷺草は姫路城が白鷺城と言われていることから姫路市の市花にもなっているとのこと。

鷺草の花が終わった後の植え替えは2月頃に鉢の中から大豆位の球根を探して取りだし新しい水苔を入れ替えて植え付けると6月頃には新芽が出て来て8月には美しい花を見ることができます。玄関に鉢を並べて置くと開花すると白鷺が飛んでいるような清楚な白い花は初めて見た人でもその名前を忘れられない程美しいものです。

我家の庭には夏の夜に強烈な香りを放つ夜香木も有ります。径が5ミリ位の小さい花が3メートルの高さまで伸びた茎に無数に咲きみだれ不思議な香りで、花というより御香に似た感じで、華やかさとは異なる奥深い幽玄な香りで夜になると一段と香りが強くなり朝方には香りも薄らいでしまいます。

我家の夏はこのように美しい鷺草と強烈な香りを放つ夜香木で時間が過ぎていきます。

次回は 北村健治会員にリレーします。宜しく

5. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

今回はありません。

6. 会よりの連絡事項

原田事務局長が仕事で出張中なので、今回はありません。

7. 編集後記

最近、ビオトープの維持管理をしながら、少し物足りなさを感じていた所、次々と絶滅危惧種と言われている様な希少植物が芽を出し、花を咲かせてくれているのを目にして、とても嬉しく思います。アサザ、デンジソウ、タヌキモ、トチカガミ、ミズアオイ等を教わりながら、コナギ、オオフサモ等の除去作業や、ヒシが全体を覆う池でトンボの産卵への影響を考慮して、半分位ヒシを除去して水面づくり等、現場でエコアップ作業も行っています。どうして、植えたわけでもないのに現れる希少植物、絶滅危惧種と言われる植物が、この環境に呼び起こされるのか、唯々維持管理と思っていたこの維持管理がこの様な形でビオトープの中身を着実に変えている事を知らされた最近の作業です。日々変化しているビオトープを、みんなで見守っていきましょう。

（松本 フデ子 記）